

令和3年度

# 福島県教育復興推進事業

避難地域12市町村における  
小中学校教育等推進事業  
実践事例集





令和3年度

# 福島県教育復興推進事業

.....

避難地域12市町村における  
小中学校教育等推進事業  
実践事例集

公益財団法人  
福島イノベーション・コスト構想推進機構



# 事 | 業 | 概 | 要

「福島県教育復興推進事業（避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業）」は、避難地域12市町村\*の小・中学校、義務教育学校において、優れたカリキュラムを編成、実証するとともに、魅力ある学校づくりに必要な教職員研修等を行うために、2017年度より文部科学省の調査研究事業としてスタートしました。

各市町村の小・中学校、義務教育学校では、本事業の趣旨に基づき、ふるさとに根差した教育活動、児童生徒たちが「通いたい」、保護者が「通わせたい」と思えるような魅力的な学校づくりのための取組みを実施しています。



## \*避難地域12市町村

田村市、南相馬市、川俣町、広野町  
楢葉町、富岡町、川内村、大熊町  
双葉町、浪江町、葛尾村、飯館村

## 避難地域12市町村の現状

市町村ごとに復興のフェーズ  
が異なり、課題は多様である。そ  
のため個々の実態に応じたきめ  
細やかな支援が必要である。

- 地元で学校を再開している市町村  
…川俣町(山木屋)、田村市(都路)、南相馬市(小高)、飯館村、  
浪江町、葛尾村、川内村、楢葉町、広野町
- 地元で学校を再開したものの、避難先でも学校運営が続いている  
市町村…富岡町
- 避難先において学校教育を行っている市町村  
…大熊町、双葉町

(令和3年4月現在)

## ⟩⟩ 避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業 <<

### 目指す姿

- 「通いたい」、「通わせたい」と思う魅力ある学校づくり
- 地域に“思いを馳せ”、地域を牽引する人材の育成

- 授業(個に応じた教育)の充実  
… ICT活用授業、外国語教育の充実、国際交流事業、体力向上プロジェクト等
- キャリア教育(地域・探究活動等)の深化…地域特産品の商品開発、地域産業・文化学習、防災復興学習等
- 学習環境の整備・充実 ………………図書館の書籍の充実、放課後学習会の実施
- 中山間地域における学校運営の在り方等の研究
- 地域と連携した「ふるさとに根ざした」魅力あるカリキュラムの構築

# 各 | 市 | 町 | 村 | に | お | け | る | 主 | な | 取 | 組



川俣町 ..... P.9



田村市 ..... P.10



南相馬市 ..... P.12



飯館村 ..... P.14



浪江町 ..... P.16



葛尾村

P.18



- 体力向上プロジェクト
- 学力向上プロジェクト

双葉町

P.19



- 防災研修
- 文化体験活動 等

大熊町

P.23



- プログラミング活動
- 「本の生まれるまち おおくま」等

富岡町

P.24



- 国際理解教育・英語教育

川内村

P.26



- 星空教室 等

檜葉町

P.27



- 地元特産品の商品開発
- 英語教育 等

広野町

P.28



- 特別支援教育の充実
- 国際理解・国際交流活動 等

研修会

P.30

避難地域12市町村における少人数教育に  
対応した教授法に関する教員研修実施





## 避難地域12市町村における小中学校教育等推進事業

# 各校の取組紹介

●川俣町	川俣町立山木屋中学校	P.9
●田村市	田村市立都路小学校	P.10
	田村市立都路中学校	P.11
●南相馬市	南相馬市立小高小学校	P.12
	南相馬市立小高中学校	P.13
●飯舘村	飯舘村立いいたて希望の里学園（前期課程）	P.14
	飯舘村立いいたて希望の里学園（後期課程）	P.15
●浪江町	浪江町立なみえ創成小学校	P.16
	浪江町立なみえ創成中学校	P.17
●葛尾村	葛尾村立葛尾小学校	P.18
	葛尾村立葛尾中学校	P.18
●双葉町	双葉町立双葉南北小学校	P.19
	双葉町立双葉中学校	P.21
●大熊町	大熊町立熊町小学校・大野小学校 / 大熊町立大熊中学校	P.23
●富岡町	富岡町立富岡第一小学校・富岡第二小学校（富岡校）	P.24
	富岡町立富岡第一中学校・富岡第二中学校（富岡校）	P.25
●川内村	川内村立川内小中学園（前期課程）	P.26
●楢葉町	楢葉町立楢葉中学校	P.27
●広野町	広野町立広野小学校	P.28
	広野町立広野中学校	P.29
研修会レポート	避難地域12市町村における少人数教育に 対応した教授法に関する教員研修	P.30

# 川俣町立山木屋中学校

取 | 組 | 内 | 容

- 地域教育(森林学習、職業人に聞く会、和太鼓講習)(5月～1月)
- 防災復興学習(RTF、伝承館見学)(10月)
- 交流活動(オンライン等による生徒会交流)(7月、9月、12月)
- 健康づくり(水泳・ダンス・体幹トレーニング、柔道、スケート)(6月～1月)
- 会議・研修(ICT研修、少人数教育研修)(7月～12月)
- 取組の発信(HP、チラシ、パンフレット)(5月～2月)

代表的な  
取組

## 地域探究活動「ふる里やまきや科」

山木屋地区の歴史、文化、特色等の理解を深め、山木屋地区に想いを馳せる心、復興を担う心を醸成する取組を行っている。

### \* 和太鼓講習 (5月～9月)

山木屋地区在住の和太鼓奏者遠藤元氣氏を講師として、和太鼓の講習を行った。10月の校内文化祭では、生徒全員で和太鼓を演奏した。地域の伝統である山木屋太鼓に触れることにより、地域を愛する心を養うことができた。また、生徒全員で一つのことを成し遂げる達成感を味わうことができた。



文化祭での和太鼓演奏

### \* 森林学習 (7月～10月、1月)

福島大学の望月翔太准教授をお招きして、学校林「学びの森」にセンサーハウジングを設置し、動物の生態について調査を行った。そこで調査した結果等をマップにまとめてことで、地域に生息する動物や植物の生態を知ることができた。



森林学習：センサーハウジング設置

#### \* 児童・生徒の声 \*

和太鼓練習は、はじめは難しく大変でしたが、本番近くになると体でリズムを刻むことができました。文化祭で練習が終わってしまいましたが、もっとやりたいです。

実際にセンサーハウジングに写っている映像を見て、地域の森にたくさんの動物が住んでいることがわかりました。地域の方々にその情報を広め、農作物の栽培の際に野生動物の対策などに役立ててほしいと思いました。

#### \* 教職員の声 \*

地域に根ざした音楽を体験し達成感を味わうことで、地域文化の継承という目的を達成するだけでなく、音楽活動の楽しさを感じ、豊かな感性を醸成することができ、音楽に親しむ態度も育つことができました。

和太鼓講習や森林活動、健康づくりなど、本事業の各取組を関連付けて実施することにより、地域探究活動「ふる里やまきや科」の地域づくりに主体的に参画する生徒を育成するというねらいに迫ることができました。

# 田村市立都路小学校

取 | 組 | 内 | 容

- キャリア学習のための全校学習旅行(10月)
- 科学実験講座(9月)(1月)
- 地域特産品の試食(11月)

代表的な  
取組

- ・キャリア学習のための全校学習旅行
- ・テーマ「都路地域を担う都路っ子の育成」

- \* 開催日:2021年10月28日
- \* 場 所:那須どうぶつ王国、  
那須野が原公園
- \* 対 象:全校生46名



SDGs講座(4~6年)



フィールドワーク(4~6年)



生き物との触れ合い、えさやり体験(1~3年)

## \* 児童・生徒の声 \*

動物園の役割には、動物の保護などもあることが分かりました。

かわいい動物にえさやりすることができて、とても楽しかったです。

## \* 教職員の声 \*

講話をいただいたことで、SDGsについての理解を深めることができました。特に、子どもたちも実際に働いている方々から話を聞くことで環境への関心を高めるとともに、動物園の仕事に興味・関心をもちました。

動物との触れ合いを通して、生命・自然の大切さを感じる学びとなりました。

那須の観光施設に訪問したことで、今後の地域と連携した特産品の商品開発の参考になりました。

# 田村市立都路中学校

取 | 組 | 内 | 容

- ブリティッシュ・ヒルズ英語研修事前研修(10月)
- ブリティッシュ・ヒルズ英語研修(11月)
- 事後指導:感想まとめ(11月)
- 英語授業での実践(11月～2月)
- 新入学生説明会で活動成果を紹介(1月)

代表的な  
取組

ブリティッシュ・ヒルズにおいて英語研修を実施  
講座内容「The SDGs and Me」「Introduction to Discussion」「Introducing Japan」「テーブルマナー」

- \* 開催日:2021年11月8日(月)～9日(火)  
1泊2日
- \* 場 所:ブリティッシュ・ヒルズ(天栄村)
- \* 対 象:全校生徒25名(1名不参加)  
引率:8名



英語でSDGsを学ぶ様子



テーブルマナーを学ぶ様子



英語でのプレゼンテーションの様子

## \*児童・生徒の声\*

講義と演習の時間は、全て英語を使うルールとなっていたのでとても緊張したが、講師の先生や仲間たちと、片言でも英語を使ってそれが通じるととても自信が持てた。

英語で話すことを躊躇しない方が、楽しく学べることに気づいた。繰り返し挑戦していくうちに緊張しなくなった。

## \*教職員の声\*

ブリティッシュ・ヒルズでの宿泊学習において、日常の英語学習の深化を図るとともに、集団生活のあり方や公衆道德についての望ましい体験活動を行うことができた。

SDGsなどの要素も加わり、教科横断的な学びもできた。

# 南相馬市立小高小学校

取 | 組 | 内 | 容

- 地域産業や文化、特色の理解に向けた『地域の将来を担う人材育成』への取り組み。

代表的な  
取組

いわき海浜自然の家での協働活動及びアクアマリンふくしまでの  
体験活動、いわき震災伝承みらい館、日産自動車いわき工場の見学

\* 実施日：12月7日（火）～12月8日（水） \* 場所：いわき海浜自然の家ほか

\* 参加者：小高小学校5年生10名



いわき震災伝承みらい館



アクアマリンふくしま



いわき海浜自然の家



日産自動車いわき工場

## \* 児童・生徒の声 \*

秋に行く予定が12月になってしましましたが、楽しみにしていた宿泊学習ができてよかったです。その宿泊学習を通じて、自分たちの地域にどのような会社（産業）があるのか知ることができました。

## \* 教職員の声 \*

当初は9/28～9/29の予定でしたが新型コロナウイルス感染症の影響により日程の変更を余儀なくされました。無事に児童全員宿泊学習に参加できて安堵しております。また、この宿泊を通じて、児童どうしの距離がさらに深まり、他者を理解する心、社会性を身に付けることができました。

いわき震災伝承みらい館に訪問し、防災に対する意識が深まりました。

# 南相馬市立小高中学校

取 | 組 | 内 | 容

- 地域内外における様々な体験活動(国際理解活動等)を通じた『多様な考え方の理解』、『コミュニケーション力向上』への取り組み

代表的な  
取組

ブリティッシュヒルズ(天栄村)にての語学研修及び  
コミュニケーション能力の育成を養った。

\* 実施日: 10月6日(水) \* 場所: ブリティッシュヒルズ(天栄村)

\* 参加者: 小高中学校1年生20名



## \* 児童・生徒の声 \*

キャンドル作りをきっかけに、全て英語でネイティブスピーカーとコミュニケーションを取ることができた。また、「素敵なキャンドル」ができて、英語に自信が持てただけではなく、ものづくりの楽しさも学ぶことができました。

学校で習った英語の表現を、実際のコミュニケーションで活用することができたので大変嬉しかったです。

## \* 教職員の声 \*

ランチタイムでは、テーブルマナーを学びました。テーブルマナーを通じて、異文化の理解を深めると同時に、日本の文化を学び直す切っ掛けとなりました。

キャンドル作り等の活動を通して、楽しく英語を学習する姿だけではなく、友人との協働する心の成長が見られました。

# 飯館村立いいたて希望の里学園（前期課程）

取 | 組 | 内 | 容

- いいたて学「聖火フェスティバル」ワークショップ（7月）
- 芸術鑑賞教室（12月）
- プログラミング教育（1月）

代表的な  
取組

## 芸術鑑賞教室

- \* 開催日：12月20日（月）
- \* 場 所：学校 第2体育館
- \* 対 象：全校児童生徒 39名



鑑賞の様子



人形のレクチャーを受けている様子

### \* 児童・生徒の声 \*

影絵の劇を初めて見ました。登場人物が黒い影で表現されていて、ビックリしました。

西遊記の物語は、ナレーターと音楽と影絵の動きがぴったり合っていて、とても面白かったです。

スクリーンの裏で動かしている人形を実際に操作してみましたが、とても難しかったです。2人の動きを合わせて表現している劇団の人は、すごいと思いました。

### \* 教職員の声 \*

影絵による演劇は、普段見ているメディアとひと味違っており、子ども達の感性に訴える素晴らしいコンテンツであった。

子ども達は、実際に人形を操作する体験や舞台装置の見学を通して、劇団の皆さんの優れた技術と表現力の素晴らしさを身近に学ぶことができた。

# 飯館村立いいたて希望の里学園(後期課程)

取 | 組 | 内 | 容

- いいたて学「聖火フェスティバル」ワークショップ(7月)
- いいたて学「デジタルストーリーテリング」ワークショップ(9月)
- いいたて学「飯館村名人図鑑」ワークショップ(9月)
- プログラミング教育(1月)

代表的な  
取組

## いいたて学「聖火フェスティバル」ワークショップ

- \* 開催日:7月19日(月)
- \* 場 所:学校 多目的ホール
- \* 対 象:全校児童生徒 23名



制作の様子



完成後の記念撮影の様子

### \* 児童・生徒の声 \*

聖火フェスティバルの展示物やメダルづくりでは、ラオス国や飯館村の人を元気にしてみたいという想いを込めながら制作に取り組みました。

オリンピック・パラリンピックに関わることができる、一生の思い出になりました。

### \* 教職員の声 \*

オリンピック・パラリンピック教育に対する理解を深めるとともに、子ども達の思いのこもった作品を制作することができた。

ホストタウンプロジェクトとして交流してきたラオス国との交流を更に深めることができ、国際理解に関する教育の充実を図ることができた。

# 浪江町立なみえ創成小学校

取 | 組 | 内 | 容

- ふるさと学習
  - ・なみえ焼きそば(5月) ・大堀相馬焼(6月)
  - ・紅葉汁(11月) ・かぼちゃ饅頭(2月)
- 体験学習
  - ・学習旅行(10月)
- 地域交流活動
  - ・プランター花苗の寄贈(11月)
- 成果配信
  - ・ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な  
取組

## 地域交流活動「お世話になった方々へ感謝の気持ちを届けよう」

- \* 開催日:2021年11月8日 プランター花植え 11月中 プランター寄贈
- \* 場 所:学校(プランター花植え) お世話になった方々の事業所(プランター寄贈)
- \* 対 象:全校生22名



花植えの様子



プランターを届ける様子

### \* 児童・生徒の声 \*

お世話になった方々への感謝の気持ちを伝えることができて良かったです。

いろいろな色の花を植えてきれいに見えるようになりました。

地域の方々に喜んでもらえて良かったです。大切に育ててくれたら嬉しいです。

### \* 教職員の声 \*

浪江町の子どもたちは、地域の方々から大切にされ、色々なことにご協力いただきてばかりなので、感謝の気持ちを伝えることができて良かったです。

来年度は、種から育て、感謝の気持ちが伝わるようできたら良いと思います。

# 浪江町立なみえ創成中学校

取 | 組 | 内 | 容

- 哲学対話(6月・1月・2月)
- ふるさと学習 ・大堀相馬焼(6月)
- 学習旅行(11月)
- 成果配信 ・ふるさと創造学サミット(12月)
- 演劇ワークショップ(12月)

代表的な  
取組

## 演劇ワークショップ

テーマ「子ども達だけで演劇をやってみよう」

\* 開催日: 2021年12月13日

\* 場 所: 学校

\* 対 象: 8名



「再現ドラマ」の創作活動



お題のシーン創作活動

### \* 児童・生徒の声 \*

初めての演劇ワークショップで緊張したけれど、とても楽しかった。「謝罪会見」の演技をみんなで本格的に演じられてすごいと思いました。

面白いエピソードをもとにみんなで楽しく劇をすることができました。

劇を練習する時間も少ししかない中、自分たちで考えて劇をすることできて良かったです。

### \* 教職員の声 \*

人の話を聞き、イメージを共有して、体で表現するという活動はまさに創造する力であって、日常の学習に共通するものだと思います。

生徒たちは自分たちで意見を出し合って、1つのものを作り上げることができ、今後は「やれない」と思わず「やらせてみる」と思うことが必要だと思いました。

演劇的な手法を取り入れたワークショップを通して、自主性、表現力、協調性などの能力を育成することができました。

# 葛尾村立葛尾小学校

取 | 組 | 内 | 容

## ●児童の体力向上プロジェクト

代表的な  
取組

児童のスイミング・スクール受講



\* 開催日:週1回(毎週火曜日) 16:00~18:00

### \* 児童・生徒の声 \*

水泳が怖かったけど、泳げる様になってうれしかった。

初めて25m泳げた時ほめられてうれしかったので、もっと泳げるようになりたい。

### \* 教職員の声 \*

少人数のため、実施できる体育授業が制限される中、児童の体力向上にとって良い取り組みとなっていると思います。

# 葛尾村立葛尾中学校

取 | 組 | 内 | 容

## ●生徒の学力向上プロジェクト

代表的な  
取組

生徒の学習塾受講

\* 開催日:  
学習塾  
(週3~5回)



村営塾の様子



村営塾の様子

### \* 児童・生徒の声 \*

授業で難しかった事や苦手な科目を学習塾で復習できるので役立っている。

受験に向けて、学習塾で集中して勉強することで自信がついた。

### \* 教職員の声 \*

学校外での学習環境が乏しいため、学習塾で学習の補完ができる事は、生徒の学力向上に繋がっていると思います。

学習塾を受講することで、自分の学力が今どのレベルにあるかを把握し、特に受験生にとってはやる気の向上に繋がっていると思います。

# 双葉町立双葉南北小学校

取 | 組 | 内 | 容

- 避難訓練(4月)
- 放射線学習(9月)
- 学習発表会(10月)
- 防災研修(11月)
- 避難訓練(12月)
- ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な  
取組

## 防災研修旅行

- (1)地域の復興・防災について考える。
- (2)貴重な体験を通し、友達と協力しあい、友情を深め、楽しい思い出をつくる。
- (3)公共の場でのマナーを守り、見聞を広げる。

町立学校からバスで栃木県に移動し、宇都宮動物園の見学、栃木県防災館で防災体験を行いました。那須に宿泊し、翌日は那須ハイランドパークで、自然体験を通じた環境活動等について学びました。

\* 開催日:2021年11月18日(木)~19日(金) \* 場 所:栃木県佐野市、那須市

\* 対 象:小学校5年生(6名)、6年生(5名)、引率





### \* 児童・生徒の声 \*

私たちは、「地域の振興や防災を考え、楽しい思い出を作ってくる」というめあてで学習旅行に参加しました。栃木県防災館では、災害の体験をすることができました。内容は、大風、火災、地震の体験です。僕は、「東日本大震災の時、学校や身近な所で、こんなに大変なことが起きていたのか」ということを知ることができました。そして、それはとてもこわいと感じました。この体験学習で、災害のおそろしさと強さ、そして身を守る方法を学びました。本当に災害があった時には、冷静に行動できるようにしたいと思いました。

宇都宮動物園や那須ハイランドパークでは、今後の地域探究活動のための学びだけではなく、友達と楽しく活動することでお互いを理解しあうことができました。この学習旅行では、防災について学んだり、友達と普段できないことや話せないことを話したり、たくさんの経験ができるとてもよかったです。

### \* 教職員の声 \*

今年度は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、様々な制約がある中で、学習旅行が実施できたことは何より嬉しいことでした。

この学習旅行の大きな目的は、防災について学ぶことです。万が一災害にあった時には、今まで学習してきたことや今回の経験をぜひ生かしてほしいと思います。栃木県防災館では、大風体験、地震体験、火災の煙体験を通して、災害のおそろしさとその時の対処の仕方を真剣に学ぶことができました。また、展示コーナーに「東日本大震災」のたくさんの展示物や掲示物があり、その時の被害の大きさを改めて知ることができました。親切な説明と案内もあり、充実した防災体験をすることができました。

本校は、児童数も少なく仮設校舎のため、活動時間や場所が限られてしまいます。今年は、宿泊を伴う活動となり、子供たちも楽しみにしていました。宇都宮動物園や那須ハイランドパークでは、グループ活動を行いました。自分たちで考え進んで行動するなど、子供たちにとって、とても貴重な体験となりました。1泊2日、約束やマナーを守って、仲良く活動することができ、実りの多い学習旅行となりました。

# 双葉町立双葉中学校

取 | 組 | 内 | 容

- 避難訓練(4月、12月)
- 総合学習(6月)
- 部活動大会、新人大会(6月、9月、11月)
- 学習発表会(10月)
- 文化体験活動(11月)
- ふるさと創造学サミット(12月)

代表的な  
取組

## 文化体験活動（宿泊研修）

- (1) 伝統文化や自然に触れることで近隣県への地域愛を深めながら、既習の知識や文化について体験的に理解することができる複数外部施設において宿泊を伴った研修を実施する。
- (2) 双葉中学校内の生徒が一堂に会した野外体験を実施することで意識を高め、地元に貢献のできる人材の育成と双葉町の絆を深める。

町立学校からバスでツインリンクもてぎへ移動し、専門員の解説を受けながら自然体験活動等を行いました。同施設に宿泊し、翌日は益子焼窯元共販センターで手びねりによる陶芸作品の作成とアクアワールド（茨城県大洗水族館）を見学しました。

\* 開催日：2021年11月10日（水）

～11日（木）

\* 場 所：栃木県、茨城県

\* 対 象：中学1年生（1名）

2年生（4名）

3年生（1名）、引率者





### \*児童・生徒の声\*

私たちは、「伝統文化や自然に触れ、地域愛を深めながら伝統文化について体験をして学ぶことと宿泊を伴った研修を通して生徒同士の意識を高め、絆を深めると共に楽しい思い出を作ってくる」という目的で校外体験活動に参加しました。

益子焼窯元共販センターでの手びねり体験では、陶芸作品を作り上げる技術の一つを体験することができました。最初から粘土をこねて制作する手びねりは電動ろくろを使用した作業に比べて、デザインや形に決まりがないのが特徴で、お皿や箸置きはもちろん、コーヒーカップやマグカップなどどのような形でも自由に作成することができることを学びました。今後は、手作りならではの柔らかい印象や作り手の個性を楽しむようにしたいと思います。

ツインリンクもてぎ(キャストウォーク・モビパーク)やアクアワールド(茨城県大洗水族館)で友達と楽しく体験活動をすることができました。この校外体験学習では、伝統文化について学んだり、友達と普段できないことや話せないことを宿泊を通して学んだり、たくさんの経験ができるとてもよかったです。

### \*教職員の声\*

今年度は、新型コロナウイルス感染症まん延防止のため、様々な制約がある中で、校外体験学習(研修)が実施できたことは何より嬉しいことでした。この校外体験学習の大きな目的は、文化芸術について学ぶことです。地域の歴史ある伝統文化に触れながら実際に体験することで今後の自己の生活や進路設計に生かしてほしいと思います。

益子焼窯元共販センターでの手びねり体験では、江戸時代末期、笠間で修行した大塚啓三郎が窯を築いたことに始まるといわれ、その特徴である土の質感等に直に触ることができ素晴らしい経験ができたと思われます。また、栃木県内でとれる陶土は気泡を多く含むため細かい細工は向かずとも厚手になってしまふことが実際の体験から学ぶことができました。また、ぱってりしたあたたかな手触りのうつわという特徴を生み出していることも知ることができました。そして、益子焼き手びねり陶芸という体験を通して、素朴な味わいを感じ充実した文化芸術を体験することができました。

本校は、生徒数も少なく仮設校舎のため、活動時間や場所が限られています。今年は、宿泊を伴う活動となり、生徒たちも楽しみにしていました。ツインリンクもてぎ(キャストウォーク・モビパーク)やアクアワールド(茨城県大洗水族館)では、各生徒たちが主体的な活動を行いました。自分たちで考え進んで行動するなど、生徒たちにとって、とても貴重な体験となりました。1泊2日、約束やマナーを守って、仲良く活動することができました。

# 大熊町立熊町小学校・大野小学校/大熊町立大熊中学校

取 | 組 | 内 | 容

- 1. 個別最適化された学びの実現や、SDGsの考えを取り入れた教育の実現に向けた、教職員の資質向上のための研修の充実。
- 2. 「本の生まれるまち おおくま」の実現に向けた取り組み。
- 3. 持続可能な社会を見据え、多様性と混在、アナログとデジタルの融合を目指し、Pepperを活用したプログラミング活動や、TV会議システムを利用した遠隔地との交流や大熊町内学習旅行の実施。また、様々な学びに対応できる書籍の整備。

代表的な  
取組

「本の生まれるまち おおくま」の実現に向けた取り組み。  
蟹江杏氏によるワークショップ

\* 開催日: 2021年11月30日(火) \* 場所: 学校 \* 対象: 9人



ワークショップの様子



ワークショップ後の全体撮影

## \* 児童・生徒の声 \*

板版に巨大画を描く杏さんとのワークショップは自分の思いを率直に表現することができるのでとても楽しかったです。プロと一緒に授業ができることは印象に残ります。

杏さんとのワークショップでは過去ではなく未来に向けた絵を描くことができました。プロと一緒に授業をすることで、心が豊かになると感じ、よい経験になりました。

## \* 教職員の声 \*

プロフェッショナルとのワークショップを通して、人材育成として、社会で生きて働く力を育てていくSTEAM教育を企画・運営していくことの大切さを感じる。

プロの引き出しあはすばらしく、普段は内気な子供も笑顔で伸び伸びと表現している。

杏さんとのワークショップでは、全ての子供が作品制作に夢中になっている姿が印象的である。

杏さんとのワークショップでは、教師が引き出すことのできない子供たちの潜在的な力を引き出していると感じる。プロの姿から学ぶことが多い。

# 富岡町立富岡第一小学校・富岡第二小学校（富岡校）

取 | 組 | 内 | 容

## ●児童生徒向け外国語指導講師による英語指導

- ①中・高学年への外国語活動・外国語の授業
- ②小学校低学年における異文化間コミュニケーション「英語であそぼう」の実施
- ③小学校における国際理解「わくわく英語DAY」の実施

代表的な  
取組

### ①②児童への授業

低学年…年間9回 3・4年…年間各35時間 5・6年…年間各70時間

〈5年生の外国語の例〉

- ・ALTと担任が題材についてスモール・トークをすることで、学習内容を把握させる。
- ・ALTが英単語練習や、聞き取り・アクセント問題の出題を行う。
- ・ALT母国の風習や食べ物などを紹介してもらい、国際理解の一助とする。

### ②わくわく英語DAYの実施 年間6回

〈10月のわくわく英語DAYの例〉

- ・「ハロウィーンを楽しもう」

ハロウィーンの単語を練習し、会話の中で単語が言えたらシールがもらえるゲームを中学生と一緒に行った。

- ・その他の活動：英語の絵本読み聞かせ、英語ゲームなど



通常授業におけるALTの支援



通常授業におけるALTの支援



国際理解教育「わくわく英語DAY」

#### \* 児童・生徒の声 \*

日本語が通じない外国人の人と話すのは大変だが、英語で伝えようとする一生懸命考えるので勉強になる。

言葉がわからないけれど、ジェスチャーでわかりあおうとしている。

英語の発音がわかりやすい。

#### \* 教職員の声 \*

ネイティブの発音に触れられることや、言葉が通じなくてもジェスチャーなどでコミュニケーションをとろうとする態度が勉強になる。

低学年でも英語や外国人の人ふれる機会があるのはよいと思う。

ALTと英語で話すことは、教職員自身の英語研修の機会になっている。

授業の打ち合わせをするとき、言葉の壁を感じことがある。

# 富岡町立富岡第一中学校・富岡第二中学校(富岡校)

取 | 組 | 内 | 容

## ●児童生徒向け外国語指導講師による英語指導

- ①リモートを使用してのアメリカとの授業(5月)シンガポールとの授業(7月)
- ②小中における国際理解教育「わくわく英語DAY」の実施(10月・12月)
- ③通常授業やパフォーマンステストにおけるALTの支援(通年)
- ④富岡町立富岡第一・第二中学校【三春校】との交流(9月)
- ⑤実用英語技能検定受験の支援(7月～11月、12月～1月)

代表的な  
取組

### ①リモート授業

アメリカへ帰国したALTの先生に自分のことをより良く知ってもらうため、先生が帰国してから自分が体験したことを伝える

代表的な  
取組

### ②小中における国際理解教育 「わくわく英語DAY」

英語での問答を通して、ハロウィーンやクリスマス等の海外行事について学ぶ

- \* 開催日:2021年5月19日
- \* 場 所:学校 (ZOOMでアメリカと繋ぐ)
- \* 対 象:1年生6名



リモート授業でのやりとり

- \* 開催日:2021年10月22日・12月17日
- \* 場 所:学校 \* 対象:19名



国際理解教育「わくわく英語DAY」



通常授業におけるALTの支援

### \* 児童・生徒の声 \*

久しぶりにアレックス先生と会話できて、とてもうれしかったです。自分から話をることができたし、緊張したけど、4分の3くらい自分で話せたと思います。

小学生と一緒に活動し、とても楽しかったし、仲を深められたと思います。

英語の力がついてきたのを実感します。

### \* 教職員の声 \*

リモート授業を取り入れ、目的・場所・状況に合わせたコミュニケーション能力が育成されている。

小中合同での活動は外国語小中連携の第一歩になっている。

ALTの存在自体が生徒達に多様性を認める心を育み、異文化理解へと繋がっている。

将来役立つ英検資格取得をすることで上の級取得や学習への意欲付けになっている。

# 川内村立川内小中学園（前期課程）

取 | 組 | 内 | 容

- 体組成測定と運動指導講座(2月)
- 星空教室の開催(2月)

代表的な  
取組

## 星空教室の開催

移動式のプラネタリウムを設置して冬の星空を再現し、川内村の星空と他の地域との違いなどを学ぶ

- \* 開催日: 2022年2月15日
- \* 場 所: 地域伝承教室にじいろ（川内小中学園内）
- \* 対 象: 川内小中学園 放課後子ども教室の児童



星空観察の様子

### \* 児童・生徒の声 \*

星座のことが色々と知れて、楽しかったです。

星がキラキラしていてとてもきれいで、また参加したいと思いました。

### \* 教職員の声 \*

自分のふるさとのすばらしさを感じることができたのでそこから視野を広げて情報を発信していくのではなかと思います。

# 檜葉町立檜葉中学校

取 | 組 | 内 | 容

●英語教育(7月) ●地元特産品の商品開発

代表的な  
取組

## ブリティッシュヒルズ(天栄村)での英語研修

\* 開催日:7月1日~2日 \* 場所:ブリティッシュヒルズ(天栄村)での英語研修

\* 対象:2年生14名

### \* 研修内容(1日目)

Survival English／ブリティッシュヒルズに滞在中に役立つ英語  
 British Hills Experiences／  
 海外滞在中のトラブルを解決するための表現  
 Table Manners Lesson in Japanese／  
 日本語による英国式テーブルマナー講座



授業の様子



テーブルマナー講座

### \* 研修内容(2日目)

Fun With Directions／方角・方向の表現  
 を学習し、実際にブリティッシュヒルズ  
 の中を探索



授業の様子



探索の様子

### \*児童・生徒の声\*

自分の英語で外国人とコミュニケーションが取れてうれしかったです。さらに英語の学習に力を入れていきたいと思います。

英国の文化(食事や生活)を体験できて勉強になりました。いつか外国に行ってみたいと思います。

どの授業も楽しく、役に立つ英語が学習できたと実感しました。

### \*教職員の声\*

英語研修を通して異文化体験や国際理解を深めることができました。また、研修で学んだコミュニケーション力、プレゼン力については、地域と連携した商品開発、販売にも活かせる力を学ぶことができたと思います。

校外での集団活動を通して、望ましい人間関係を構築することができました。

# 広野町立広野小学校

取 | 組 | 内 | 容

## ●特別支援教育の充実(専門家招聘による「つなぐ教育」)(支援員配置)

代表的な  
取組

### 専門家招聘による「つなぐ教育」

特別な支援を要する児童への教育を展開する上では、児童及び保護者との信頼関係が重要である。また、当該児童への合理的な配慮を行うにあたっては、状況に応じた指導が重要であることから、教職員が特別支援に係る専門的な知識を深めたうえで、より個別最適な特別支援教育を実施するため、福島県立医科大学の特命准教授(臨床心理士)2名を毎月招聘し、教職員及び保護者に対してアドバイスを行っている。また、広野町職員、教育委員会、こども園教職員、小学校教職員及び中学校教職員と情報共有及び意見交換を行い、特別な支援を要する児童生徒の個性や発達段階を詳細に分析し、適切かつ切れ目ない教育指導法アドバイスを行う。



### \* 児童・生徒の声 \*

カウンセリングだけではなく、休み時間や給食の時間など話かけてもらい、ちょっと困っているときなどに話を聞いてもらうことができて嬉しい。

### \* 教職員の声 \*

特別支援学級の児童はもちろんのこと、各学年を見ていただいて、本校一人一人の子ども達への支援の仕方についてアドバイスをいただけている。また、保護者からの相談にも丁寧に応じていただき、子育ての支援をしてもらっている。専門的知見によるアドバイスは的確で、担任の話にも耳を傾けてもらえるので児童及び保護者も心の安定に繋がっているとともに、個に応じたきめ細やかな教育を行うことができる。

# 広野町立広野中学校

取 | 組 | 内 | 容

## ●国際理解・国際交流活動(グローバル・デイ事業)

### 代表的な取組

「第二次広野町教育ビジョン」の施策体系の一つである「グローバル人材を育成する教育の推進」として、生徒の語学力や積極的なコミュニケーション能力の育成、国際理解・国際交流活動を通してのリーダーシップ育成及び国際課題の発見や解決能力の醸成に資するため、東日本国際大学との連携事業として毎月、広野中学校に留学生を招聘し、生徒への授業や協働を行っている。



### \*児童・生徒の声\*

いろいろな国の人と交流ができ、他国の学校の文化なども知ることができ勉強になりました。意外に相手が話す英語が理解できてもしろかったです。

留学生の人たちとお話しやゲームをすることができてとても楽しかったです。なかなか外国人の方と話すことは少ないので少し緊張しましたが、留学生の方々が優しく教えてくれたので嬉しかったです。

私はグローバル・デイを通して、国が違っても伝えようとする気持ちがあれば、コミュニケーションをとることができると思いました。

### \*教職員の声\*

留学生と自己紹介し合ったり、互いの文化を伝え合ったりすることを通して、生徒達は異文化理解を深めることができました。また、授業で学んだ英語を実践的に話すよい機会になっています。



〒975-0031  
福島県南相馬市原町区錦町一丁目 30 番地  
TEL:(0244)26-1314  
FAX(0244)26-1318  
E-mail:sousou.kyouiku@pref.fukushima.lg.jp

## 避難地域 12 市町村における 少人数教育に対応した教授法に関する教員研修

日 時：令和3年9月30日（木）9:30～12:00

参加者：小学校教諭30名、中学校教諭22名、義務教育学校教諭 2名

市町村教育委員会 7名

合計 61名

内 容：大熊町立学校による実践発表

講演 「学習者中心の学び、誰一人取り残すことのない個別最適な学び」

北海道教育大学 教授 川前 あゆみ 様

避難地域 12 市町村からの参加者による小グループでの協議



### 研修のまとめ（指導主事から）

川前先生の講演より、少人数教育による個別最適な学びに向けての取組ポイントは、以下の3点です。

- (1) 自己肯定感を高める異年齢集団の交流活動。
- (2) 小規模性を活かした学習指導・授業運営等のデザイン。
- (3) 少人数指導の対面授業のよさと複数校をつなげる遠隔授業のよさを活かした授業展開。

今後も、教育活動がより創造的で豊かな教育実践となるよう、少人数教育についての研修を深めていきましょう。

### 今後、取り組みたいこと（受講者から）

- 少人数教育のマイナスイメージを、自分のなかでプラスに考えながら指導していきたい。
- 主体性、自律性を育むために、教職員間で意思疎通を図って指導に当たっていきたい。
- 必要とされるまで待つこと、本人の「～したい。」という気持ちを引き出していくことを考えていきたい。
- 異学年交流を通して、他者を意識する活動の充実を図っていきたい。また、座席配置等も工夫したい。
- 各学校のICTの活用方法を知ることができてよかったです。使えるソフトやアプリは違うが、教員同士で連絡を取り合うことができるチャット機能などは使ってみたい。
- 他校とのオンライン授業やICT教材の活用を積極的に行っていきたいと思った。そのために、自分自身のスキルを向上させるとともに、児童生徒もICT機器を日常使いすることによって、活用スキルを身に付け、文房具のように使用できるようにしたいと思った。









公益財団法人  
福島イノベーション・コースト構想推進機構

2022年3月18日発行

<https://www.fipo.or.jp/>

〒960-8043 福島県福島市中町1番19号 中町ビル6階

TEL:024-581-6897 FAX:024-581-6898

本実践事例集は、文部科学省の「福島県教育復興推進事業」（避難地域 12 市町村における小中学校教育等推進事業）により作成しました。